

ベスト4進出ならず

埼玉選抜に惜敗

— 国民体育大会成年男子 —

第35回国民体育大会成年の部に久々に出場した兵庫は、五大都市体育大会に出場したメンバーでベスト4入りをめざし、10月10日神戸を出発しコンディションを調整した。

第一戦の対福岡選抜戦は、立ち上がりから積極的に攻め、気はやり中央突破をかけていくため相手のディフェンス陣を崩せず逆に中盤をつながれてゲームを支配されリズムに乘れない。しかし、26分八木が蹴ったフリーキックをゴール前の北川がGKとせり合いながらバックヘッドで得点。この1点で落ちつき後半徹底してボールをオープンにまわし、山田のドリブルシュート、関根のヘディングシュートで3-0と完勝した。

いよいよ準々決勝、サッカーの本場埼玉選抜との対戦だ。コンディションをこの試合に調整していたので気力とも十分であった。前半埼玉選抜の早い動きにとまどいMFが振り切られる場面があったがバックラインがねばり危機を脱した。しかし、25分相手DFがゴール前にロビングをあげゴールキーパーとせるため相手FWがジャンプしたが、ロビングボールは、すでに反応しかかえたゴールキーパーの逆をついて不運にもゴールイン。前半0-1。後半、ハーフタイムにMFは守備面では辛抱して耐え、攻撃面でもう少し前へでて仕事をする。徹底してオープンボールをまわすこと。ゴール前では相手のDFが高いので前で勝負するか、大きいボールでう



埼玉選抜（優勝）に惜敗した県代表チーム

らで勝負するかを指示。ハーフタイムのミーティングが功を奏しMFとDFの積極的な攻撃で中盤を完全に支配しリズムにのった攻撃が続いた。埼玉選抜のディフェンスを度々おびやかしたがラストパスがうまくつながらず、かつシュートに正確さを欠き、惜しくもタイムアップ。0-1で敗れ、ベスト4への夢は果たせなかった。今後の課題としては質的に良い動きと終盤での突破のタイミングの正確性をつけることであり、各々が各チームでその点を十分認識し練習するよう指導したい。

（岡本）

〈メンバー〉

GK 松岡泰典（三菱神戸） 福山嘉夫（兵

職教員）

DF 市川雄一、八木重光（以上兵庫教員）

桑田端夫、庄田満（以上三菱神戸） 西田正雄

（大日日本電線）

MF 菊岡良之、水野修（以上兵庫教員）

前田正司、岡中正安（以上三菱神戸）

FW 山田仁彦、関根繁（以上兵庫教員）

北川雅典（大日日本電線） 大野真一（神戸

市役所）

試合結果

10/3(日) 1回戦 不戦勝

10/14(火) 2回戦 対福岡選抜 3-0

10/15(水) 準々決勝 対埼玉選抜 0-1

新たに31人が修了

— 昭和55年度少年指導者講習会から —

昭和55年度神戸市少年サッカー指導者講習会の閉講式を10月31日磯上スポーツ会館で行なった。一北理事長より修了証を手渡された31人の修了者の笑顔とやる気にもえる眼が印象的だった。そのあと懇談会に移り、長期にわたってよく頑張った苦心談に花が咲いた。今年は5月30日から始まった。前期6回、後期6回にわたる全日程の前期は主に磯上のスポーツ会館を、後期は主に御影工を利用したが、スポーツ会館の利用は講義、実技に大きな成果をあげた。頭初45人という過去最高の受講生は仕事などの都合で31人に減ったものの最後までよい雰囲気が続いた。受講者一人一人のやる気、心構えが立派であった故である。特に実技の上達は今著しくなった。

そして中学の先生方も3人が修了した。『小さな勇氣』の輪が広がって小学生から中学生へとよい関係がうまれていくことに期待したい。

昭和49年から毎年行なわれているこの講習会も7年を経た今延べ113人の修了者を送りだしてきた。受講生の年齢の高低、サッカー経験の有無、指導経験の多少はあるが、少年達によいサッカーをという素朴な願いは全員の共通点であり、苦しかった実技、ねむかった講義もよい思い出として一層の努力を続けてほしい。

小さな勇氣が大きな勇氣になった今さらに情熱を結集して少年達に夢を与えようではありませんか。

（黒田）

55年度講師と修了者（カッコ内は指導チーム）

講師 一北四郎、森田哲士、黒田和生、加藤寛、岡俊彦。

修了者

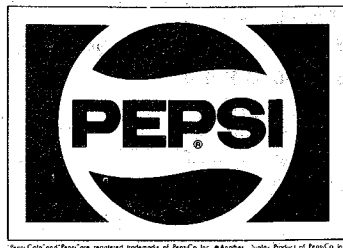
石村曜子(KSS)、上田禎彦(白鶴)、岡野和晃(上野中)、岡部京子(高倉台)、加藤均(多井畑)、川並浩司(竜ヶ台中)、黒木唯一(桜の宮)、坂倉正美(桜の宮)、白木原靖生(高倉台) 谷川壮一(高倉台)、鳴瀬良一(大協)、広瀬治(蓮池)、正橋達男(桜の宮)、三木浩市(桜の宮)、水野正行(多井畑)、宮本十郎(高倉台)、村上恒男(灘中)、村上康司(KFG)、門野征洋(多井畑)、山元一夫(蓮池)、清原忍(桜の宮)、西野一幸(多井畑)、富士信男(KSS)、前田博子(KSS)、宮本進次(多井畑)、留田正彦(KSS)、市川浩二(大阪)、森修(ひよどり台)、浅野正倫(ひよどり台)、宮本亮(KSS) 花木武(ひよどり台)

個人購読のご案内

弊紙を個人で購読ご希望の方は、1年分として50円切手12枚を同封のうえ、次のところへお申し込みください。

〒657 神戸市葺合区八幡通2-5磯上公園 神戸市サッカー協会 078-232-0753

なお、数人分まとめて申し込まれる場合は割引がありますのでご連絡ください。



神戸のサッカー

1980 11月号

発行所 神戸市サッカー協会
神戸市葺合区八幡通2-5 磯上公園
〒651 ☎ (078)232-0753
発行人および編集人 加藤 正信
神戸市灘区上野通6丁目3-12
〒657 ☎ (078)861-3100

毎月1回10日発行 購読料1部30円

助け合ったプレーが勝利を呼んだ

神戸市役所市総体で初優勝

第29回神戸市総合体育大会は、各区より選出された精鋭9チームにより競われましたが、大会日程の予選が盆、夏休みになること、本大会が天皇杯、県リーグ日程と重なることにより参加チームが少なく、さみしい大会となりました。

準決勝2試合は10月12日雨模様の中で激戦がくりひろげられました。第1試合兵庫区代表対灘区代表は、総合力で灘区(神戸FCシニアA・B)が3-0と兵庫区代表(三菱FC)を降しました。第2試合は神戸市リーグ一部同志の戦いとなり、生田区代表(神戸市役所)対葺合区代表(葺合ク・神鋼)は、前半0-0と肉迫したゲームで終り、後半葺合区は相手バックスのすきをつきハーフラインから単独ドリブルシュートを決めるなどたてつづけに2点を先取しました。ゲームはそのまま終るかと思われましたが、後半28分生田区ウィング吉坂よりCF塩形に絶妙の縦パスが通り、これを塩形が走り込みドリブルシュートを決め、これで勢いづいた生田区は32分MF松本がミドルシュートで同点に追いつきました。また、終了のホイッスル寸前には、左45度より右足のアウトサイドで、市役所の吉坂がシュートを決め逆転に成功そのまま終了しました。

決勝戦は灘区と生田区で行われましたが、市リーグ2・3部で構成された神戸FCシニアと1部リーグの神戸市役所との戦いであったため走力の差で生田区代表神戸市役所が初優勝をかざりました。

▷決勝(10月26日 磯上)
神戸市役所A 4 { 3-0 } 神戸FCシニア
(生田区) { 1-0 } (灘区)
▷3位決定戦(10月26日 磯上)
神鋼・葺合 0 { 0-0 } 三菱重工
クラブ { 0-0 } (兵庫区)
(葺合区)
トスで神鋼・葺合クラブの勝ち

第29回神戸市総合体育大会成績

灘区(神戸FC)	1	5
長田区(神戸アーセナル)	0	3
東灘区(御影工高OBクラブ)	0	0
兵庫区(三菱重工)	0	0
須磨区(須磨クラブ)	1	0
垂水区(川崎重工)	1	2
葺合区(神鋼・葺合クラブ)	0	1
北区(神戸北高OBクラブ)	1	4
生田区(神戸市役所)	3	8



市総体で活躍した塩形(全国自治体選手権大会から)

初優勝した神戸市役所チーム

GK 水野一重
BK 池田勝彦、仁科 宏、松尾 進、露本完爾、上月三代司、遠藤成博、梶川龍彦、青木利博、柳田昌稳、東滝一郎、村上義幸
HB 松本 猛、天王寺谷慶吾、大江利郎
FW 塩形洋二、樋口幸男、小嶋秀行、藤田栄二郎、大野真一、成田洋一、平沢学

チームは昇り坂

神戸市役所監督 吉坂 秀明

総体に優勝できましてチーム全員大変喜んでおります。毎年総体には、全国自治体大会の関係であまりいい成績を残していません。苦しい勝利であったが全員が助け合ったプレーをやれたのが優勝につながったと思います。

若いチームらしくどんな試合でも運動量がよく体をはった迫力のあるプレーをしようといいい続けておりますが、相手に合わせたプレーが見られたのが反省の材料として残ります。総体に優勝できたので次の目標でも11月から始まる大会で県リーグ入りをめざし、力的に少し苦しいと思われたのですが、若手全員ハリキッテ練習に励んでいます。

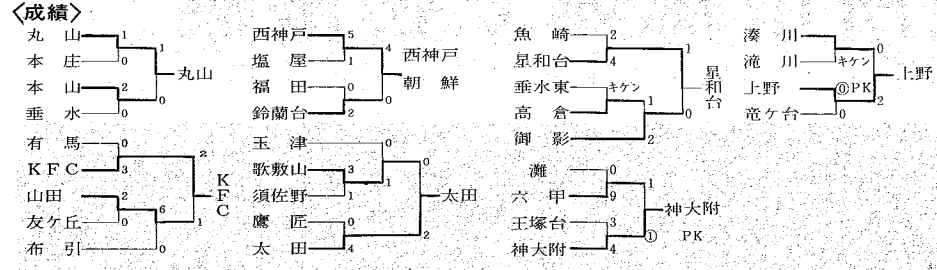
神戸市代表に

丸山・神戸F C・西神戸朝鮮

太田・神大付属・上野・星和台

― 県中学生サッカー新人神戸市大会から ―

第14回兵庫県中学生新人選手権大会の神戸市予選は、竜ヶ台中学校を主会場に市内31チームが参加し、10月5日、10日、12日の3日間にわたり熱戦が展開された。神戸市代表チームは7チームであるため、7ブロックに分け、それぞれの優勝チームが代表に選ばれた。神戸市の代表として県大会への出場権を獲得したチームは、丸山、神戸F C、西神戸朝鮮、太田、星和台、神大付属、上野の7チームである。

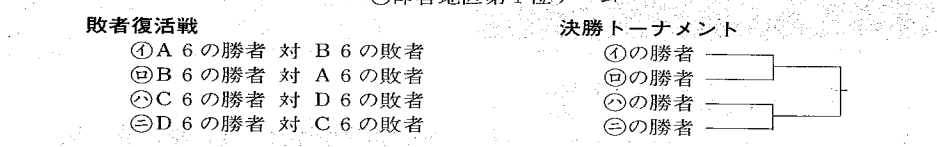
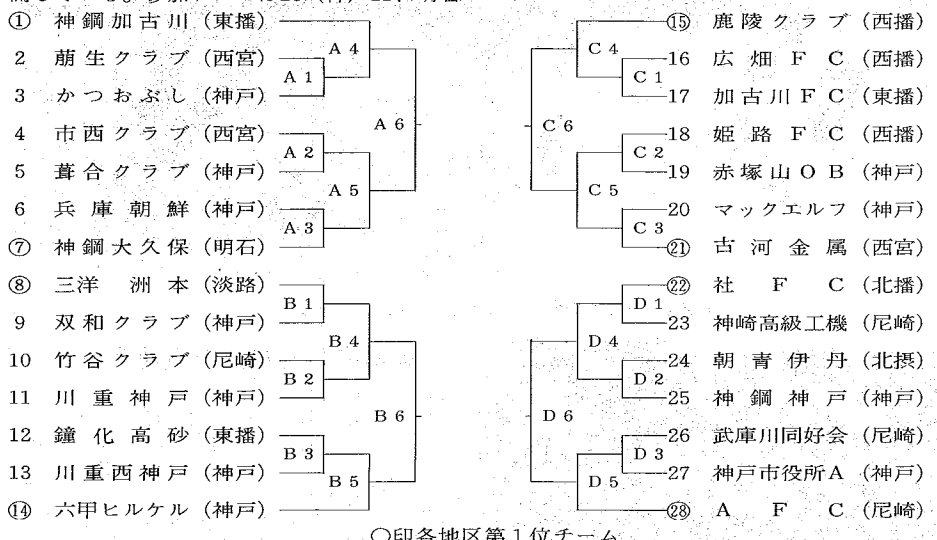


ねえ！めざせ！

県リーグ昇格

～ 県都市リーグ決勝大会始まる ～

兵庫県リーグ入りをめざす昭和55年度県社会人都市リーグ決勝大会は、10月26日から12月7日にかけて4ブロックに分かれ熱戦を展開している。参加チームは28（神戸11、明石



ミニサッカーに46チーム300人参加

― 若人の祭典から ―

兵庫県青少年本部、兵庫県青少年団体連絡協議会が主催して5年前より行われている若人の祭典が9月23日、加東郡滝野町の緑あふれる播磨中央公園に5,000人が集い、友情の輪を広げた。

県青少年団体には、ボーイ、ガールスカウト、青年団、ユースホステル協会、YMCA、

スポーツ少年団ほか青少年活動をしている26団体が集まったもので、その一つの構成員である社団法人神戸フットボールクラブは、これまで若人の祭典の催しとしてミニ・サッカーを担当してきた。今年も播磨中央公園球技場に小学3年生から社会人まで46チーム 300人が参加して、秋晴れのすがすがしい空気を

味わいながら各部に分かれて熱戦を展開した。一般の部では明石の小学校の先生でチームを編成したアウトローズが法を無視せず(?)無敗で優勝。中学生の部では神戸F C ジュニアAが三木中町中学を押えて優勝した。また、小学5、6年生の部では1、2位を損保少年団が、3、4位を高丘西少年団が占め、小学3、4年生の部でも高丘西が優勝、2、3位を損保と県下の少年サッカー所がその強みを発揮して上位を独占した。

ミニ・サッカーは兵庫県ではまださほど普及していないが、セルジオ・越後のさわやかサッカー教室外、熊本、東京、北海道ではかなりさかに行われている。日本協会でも昭和52年にミニ・サッカー競技規則を制定し、ミニ・サッカー連盟も同年に発足して、その普及に努めている。

ミニ・サッカーとは屋内外を問わずサッカー競技を基礎としてコートを縮小し、5～8人ぐらいの少人数で行うサッカー的スポーツを総称し、サロンフットボール(ブラジル)、ガーデンフットボール(イギリス)とも呼ばれている。人数が少なく、コートも狭まいたため一人がボールに触れる回数が多く、サッカー的なゲームのおもしろさを味わえるだけでなく青少年には技術、戦術を身につける効果的なトレーニングにもなる。市協会一北理事長も今後積極的にミニ・サッカーに取り組みたいといっている。(加藤)

― 関西社会人リーグ閉幕 ―

昭和55年度関西社会人リーグは、日本リーグ2部への昇格をかけて10チームで争われたが、兵庫県の兵庫教員団は7位、三菱重工神戸が8位、新日鉄広畑が10位とまったく振わず、日本リーグ2部昇格は夢の夢におわった。

兵庫県サッカー協会の役員はもとより神戸市各都市のサッカー関係者はさぞがっかりしているのではないか。兵庫県の最強チームである兵庫教員、三菱神戸、新日鉄ががんばり県下の社会人チームをリードしなければサッカー王国兵庫は浮かばれない。

なお、今年度の部門別成績である得点部門では、兵庫教員団の関根繁が9点で2位、アシスト部門では兵庫教員団の水野修が4点で3位に入っており、10月24日大阪スポーツ会館で表彰式が行われた。

関西トレセン代表に

八木ら6人決定

日本協会が主催して行われているトレーニングセンター構想の下で養成されている若いサッカーマンがこの1年間でどれほど向上したかを測定する9地区対抗戦及び全国中学生選抜大会の関西代表を決める選考会が、10月5日大阪府摂津市摂津高校グラウンドで行われた。

兵庫県トレーニングセンターの代表は、高校2年生として八木、古谷、青木、森野、高校1年生として和田、永島、井上、白沢、西中、中学3年生として溝畑、井上、跡上、中学2年生として井上、山中、西中、中学1年生として土橋、の合計16人が参加した。

その結果、高2の八木（御影工）高1の和田（県御影）中3の溝畑（KFC）の3人が選抜された。中2では山中（KFC）井上（滝野西中）西中（御原中）の3人が選抜された。

八木、和田、溝畑の3人は、11月20日から24日まで検見川東大グラウンドで行われるトレーニングセンター9地域対抗戦にも出場する。山中、井上、西中の3人は、来年3月東京三菱養和グラウンドで行われる全国中学生選抜大会に出場する。

6人はそれぞれ、関西代表として大いにがんばれるよう練習に励んでいる。

神戸F Cボーイズ2年連続優勝

― 第2回神戸兵庫ライオンズ杯 ―

県大会への出場権をかけ9月7日から始まった第二回神戸兵庫ライオンズ杯争奪少年大会は10月10日秋晴れのもとで各部の決勝戦を行い幕を閉じた。1部（小6以下）に27チーム、2部に16チーム、3部に11チームが参加したが、1部、2部はともに神戸F Cボーイズが2年連続優勝。3部は八多が初優勝を飾った。

ライオンズ杯と呼ばれるこの大会はカップの大きさを子供達に大変人気がある。（カップ、トロフィーは兵庫ライオンズクラブの寄贈による）また、春から冬への長期リーグ戦の合い間の勝ち抜き方式の大会はスリルがあり、そして夏の成果をたためすよい機会でも指導者も意気が上がる。全54試合を通じPK戦は6戦あり、昨年は1部決勝がPK戦だったが今年は3部の決勝がPK戦だった。

閉会式後は兵庫ライオンズクラブのメンバーが女子優勝の八多に挑戦「サッカーってむつかしいな」初めてボールをかった人も「次はもう少し練習して」の声もきかれ、普及にも大きく役立ちそう。

優勝した3チームは11月2日・9日電野で開かれる兵庫少年大合へ出場するが3部は2チームのワクがあるため第二位の高倉台も出場する。

1部（小6以下）

各チームとも充実しておりレベルの高い試合が続いたが中でも神戸F CボーイズAが頭一つ抜きんでおり優勝はほぼ予想どおり。準決勝の神戸F C対成徳を観戦した西邑昌一氏は『うまいノ市全体のレベルアップは著るしいと思う。KFCはウイングをうまく走らせコートを広く使って左右にゆさぶったのが効果的だった。三角パス、スルーパスのタイミングも見事だった。しかし、一対一のボールの奪いあいでも特に守備陣の体の使い方のまづさが目についた。一方成徳の方も守備陣がボールにつられず中央を固めていけばもっと接戦になったと思うが。』と語った。

ベスト4以下では、ちとせA、箕谷A、東灘A、北五葉A、神戸F C・Bの健闘が光っていた。

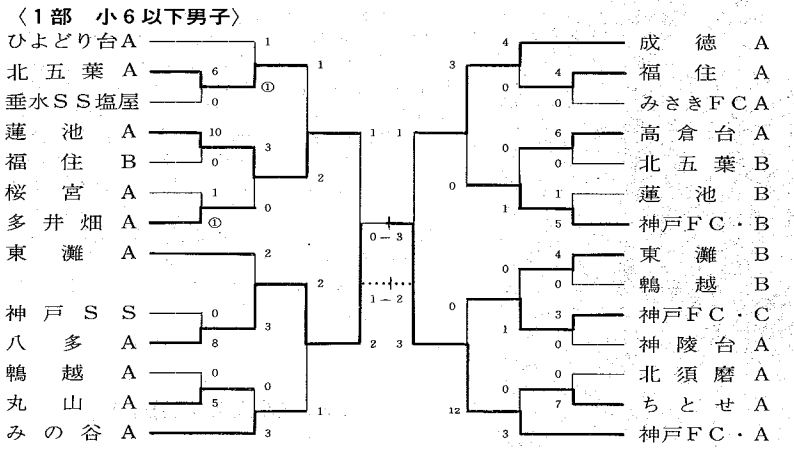
2部（小4以下）

神戸F CボーイズDが優勝したが多井畑B、蓮池C、成徳Bの上位4チームは実力紙一重。ほかに北須磨BもPK戦で成徳に敗れたが全員元気よく名門復活の声も聞かれている。みさきF C・Bも初出場ながらよく健闘した。

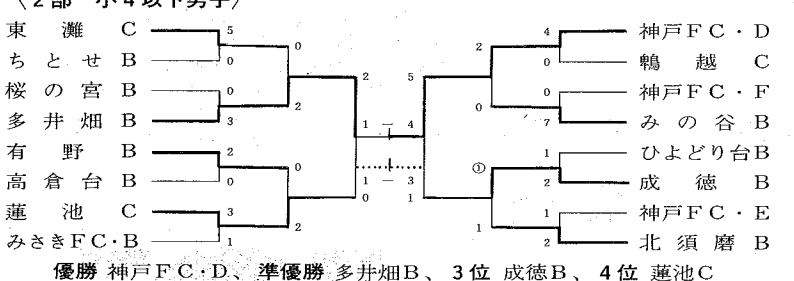
3部（女子）

各チームとも実力が接近し、接戦が多かった。高倉台は劣勢が予想されたが準決勝で多井畑をPK戦で破り、また決勝戦でも八多にPK戦の末おしくも敗れるという善戦ぶり。ほかにひよどり台の健闘が光った。（黒田）

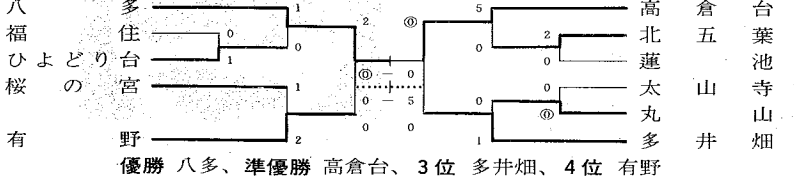
第2回神戸兵庫ライオンズ杯争奪少年サッカー大会成績



○PK勝ち 優勝 神戸F C・A、準優勝 八多A、3位 成徳A、4位 蓮池A



優勝 神戸F C・D、準優勝 多井畑B、3位 成徳B、4位 蓮池C



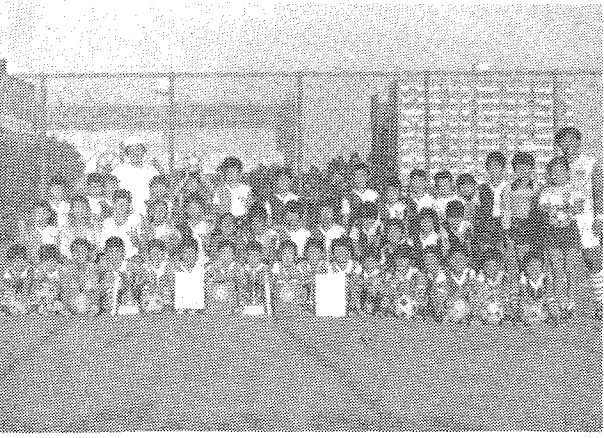
優勝 八多、準優勝 高倉台、3位 多井畑、4位 有野



1部 神戸F C B対成徳より



2部決勝戦 KFC・D対多井畑Cより



優勝したKFCボーイズ AとDチーム